まつえアドバンス・ケア・プランニング普及・啓発推進協議会主催

アドバンス・ケア・プランニング(ACP)市民公開講座

～考えてみませんか？ あなたはどこで、どう生き、どう最期をむかえたい？～

令和５年12月2日(土)　まつえアドバンス・ケア・プランニング普及・啓発推進協議会／主催：市民公開講座を開催しました。当日は、地域住民79名とスタッフ25名合わせて、100人あまりの皆様とACPについて考えることが出来ました。当日の様子をお伝えします！！

松嶋 永治 会長
（松江市医師会副会長）ご挨拶

元気な時にも、医療や介護が必要となった時にも、本人の「どこでどう生きたいか、どういう医療や介護を受けたいか、最期をむかえたいか」といった意向に寄り添い、住み慣れた松江市で住み続けていただくために、ACPは有用な方法と考えられます。本日は、市民公開講座を通じて、市民の皆さまにACPについて知っていただければと思います。

映画上映会

「うちげでいきたい」映画の舞台とロケ地は鳥取県大山町。住み慣れた自宅で最期を迎えたいという末期がんを告知された高齢の祖母とそれを支えようとする家族の物語を鑑賞しました。

映画「うちげでいきたい」ポスター／チラシ

孫先生ご講演会

映画の監督で医師の孫大輔先生より、『映画「うちげでいきたい」から考える看取りと家族のかたち』をテーマにお話をしていただきました。

孫先生からは、在宅看取りを可能にする3つのこととして、①本人の意思表示 ②訪問診療サービス ③家族の協力についてのお話や、最期まで安心して暮らせる地域作りには、お互いの顔が見える関係や相手に寄り添うことが大切ということ等についてお話いただきました。

孫 大輔 先生（鳥取大学医学部地域医療学講座　講師）

パネルディスカッション

松江市内で働く医師・看護師・ケアマネジャーと孫先生で、もしもの時のこと、在宅看取りについて、意見交換をしました。

● 普段から、かかりつけ医を持って、色々相談ができる環境を整えておきましょう。

伊藤 健一 医師（松江市医師会副会長）

● 『最期まで家で過ごせてよかったね』と思ってもらえるような看護を目指しています。

山城 浩子 看護師（島根県訪問看護ステーション協会松江支部副支部長）

● ケアマネジャーは調整役であることから、それぞれの思いを『繋いでいく』ことを大切にしています。

森脇 あゆみ 介護支援専門員（松江地域介護支援専門員協会副会長）

（右）座長　**岡田 昌治** さん
（松江地域介護支援専門員協会会長）

質疑応答の一部をご紹介

質疑応答も大変盛り上がりました!!

Q.孫先生のお話の中で出てきた地域では、在宅看取り率が50%以上と言われていましたが、その理由は、地域の体制が整っているからなのでしょうか。

A.（孫 先 生）人口5,000人で、お互いの顔が見える関係性の地域で、診療所の医師が熱心に在宅医療や在宅看取りなどの地域まるごとケアを実践されています。専門職だけでなく、地域の商店街など、一般の方からの協力も大切にしているところです。

Q.私は遠方にいた95歳の祖母を看取りました。遠方にいながら家族として何かできることはないでしょうか。

A.（伊藤先生）ご家族との話は大事です。話し合いの場を多く持たせてもらいたいと思っています。
（山城看護師）ケアを担う専門職とのコミュニケーションが大事です。リモートや近くの家族と連絡を取り合うなど、情報共有が大切だと感じています。
（森脇ケアマネ）遠方の家族の気持ちも大切にしなければいけないと感じます。こういった方々がいることを考慮しながら関わっていきたいです。

参加者からいただいた感想の一部をご紹介

映画を見て、死は日常生活の一部で当たり前のことであり、決して特別なことではないんだと思いました。

家族と人生について、なかなか話せていませんが、特別なことではなく、普段の会話のなかで、話せていけたらと思いました。

家族など身近なところではACPを知らない人もたくさんいると思うので、自分がどんな人生を送りたいか知るきっかけになることを伝えていきたいです。